

このニュースはご購読を確認した方にポスト配布しています。中止希望の場合は、最寄りの会員、又は次の連絡先までお知らせ下さい。

越谷市委員会 962-9595 まちかど編集局 090-1737-1299

「国葬」強行が国民を分断

岸田首相 「国葬のルールを作る」とは???



宮川市議も参加 13区市民の会の反対集会

9月25日春日部駅西口 約200人参加

ご報告 9月初旬に「赤旗」「まちかど」読者の皆さんからお寄せいただいた「国葬反対署名」は、急なお願いにもかかわらず200名に達し、9月13日、首相官邸の岸田文雄氏あてに郵送しました。ご協力に感謝申し上げます。

岸田首相は9月27日、6割にものぼる国民の反対を無視して、安倍元首相の「国葬」を強行しました。

全国で反対行動

しかし一方では国会正門前には15000人もの人々が集まり、日本共産党、立憲民主党、れいわ新選組、社民党の党首が参加、抗議のスピーチを行いました。その後、武道館で「国葬」が始まると大規模な反対デモ行進を開始しました。この動きに呼応して長野駅前、京都市役所前、札幌駅前、仙台市、甲府駅前、名古屋市中区、大阪北の島公園、広島市、沖縄

県庁前、など全国各地で抗議集会・行動が繰り広げられました。

安倍氏礼賛の大合唱

「国葬」の様子はNHK、民放

各局とも「歴史的1日を完全中継」などと称して、献花台に参列する25000人の姿や、「式典」そのものを一色報道しました。問題なのは、中継をはさむ識者らのコメントの大半が、亡くなつた方とはいえ、礼賛一邊倒で埋め尽くされたことです。

菅元総理の弔辞も

特に菅元総理の弔辞が岸田首相のそれより一般の心を打つ内容だったと強調されたのは見過ごすことできません。菅氏は、批判の多いアベノミクス経済政策や、憲法違反の安保法制、特定秘密保護法、ほとんど成果のなかつた外交などを、「難しい課題をやりきつ

つた」と述べ、安倍政治を正当化したのです。これこそが「国葬」のねらいだつたと言えます。

国民を分断

「国葬」反対の人々は、何も安倍氏の葬儀をするなど言つてゐる訳ではなく、「国葬」にすること自体に反対したのですが、結局、賛成派、反対派と国民を分断する結果になりました。

支持率急落は当然

10月1、2日に行われた報道各社の世論調査。4日で一年目を迎える岸田首相の仕事ぶりについて「評価しない」56%、「評価する」42%となりました（朝日）。内閣支持率は支持42・7%、不支持53・9%（JNN）、「朝日」「読売」でも40・50、45・46%と不支持が多数になっています。

憲法は「国葬」を拒否している

10月3日、臨時国会が召集され、衆参両院で論戦が始まっています。この中で、「国葬」開催について国会に諮らなかつたとの批判に対し岸田首相は、これから「国葬のルール」を作ると開き直っていますが、まったく言語道断です。国民が主人公、国民みな平等との憲法理念になじまないからと「国葬」令が廃止された、その意味をどう解釈しているので

統一教会問題の徹底解明を求める意見書採択

—9月越谷市議会で共産党市議団提案

日本共産党越谷 ネット、無所属議員

日本共産党越谷市議案が9月議会に提案した「世界平和統一家庭連合（旧統一教会）と国会議員とのかかわり徹底解明することを国に求め」る」意見書が、公明党、立憲・市民数とかかわりを持った（新こしがや」10月2日号掲載）。

つていてことなどが明らかになつていますが、自民党は「自己点検」だけで済まそうとしており、国会がオカルト集団に汚染されていることに痛みを感じていません。

一教会と自民党のかわりの中心だった安倍元首相は亡くなっているから、現衆院議長の細田氏は自民党会派を離れていたからと「自己点検」対象から外す（政党助成金取得には細田氏も勘定に入れてい る）始末。もう自民党政治を終わらせないと日本がつぶれそ うです。

宮川まさゆきの生活相談会

—お困りごと 解決しましょう—

10月18日14:00~

(次回・11月15日)

連絡先 090-3908-6409 (宮川)
場 所 レンタルスペースまちかど
(恩間 355-2)

消費税使い 2800 病床削減

新コロナ感染症対応の中
心となる急性期病床などが、
2021年度分で2770
床削減されていくことが、厚
生労働省が9月30日に開いた
有識者会議で報告されま
した。

A black and white portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a light-colored button-down shirt. He is looking slightly to his left.

富川まさゆきの定時定塲⑯ 人の生と死に格差をつけるな

「赤旗」10月4日号より

あがるなど、どこからどうみても国葬実施に道理がないことを「国葬」を通してみんなが体験しました。

「少し前からお風呂は3日に1回に」「お墓の維持費用が工面できず、亡くなつた夫の骨壺は押し入れの中に」など、生と死にも格差が表れていて、こういう声が政府に聞こえるよう、「国葬」は終わつても、声を上げ続けようと決意しました。